

## 加治次郎家季館跡（飯能市）

築城年代：鎌倉時代、築城者：加治氏

ここは、飯能市中居に所在する寶蔵寺/境内と墓地の北側にある丘陵斜面に、鎌倉時代の武蔵七党の丹党出自である加治次郎家季の館跡があったと云う



本堂手前の右手に説明板が立っている



飯能市指定有形文化財(考古資料)

## 宝蔵寺一字一石経

飯能市大字中居一〇〇番地

平成九年六月一日指定

宝蔵寺一字一石経は、昭和五八年本堂を改修したさいに須弥壇の床下を掘りくぼめた穴(四・五<sup>メートル</sup>×一・六五<sup>メートル</sup>、深さ二〇<sup>センチ</sup><sup>メートル</sup>)から発見された。経石の数は六万個を数え、そのうち、二、八四九点に墨書された经文及び墨跡が確認された。また孔雀・地藏などの絵を描いた石が発見された。一緒に納められた願文石には、寛文九年(一六六九)本堂を改修するにあたり妙法蓮華経を書写して埋納したと記されている。

一字一石経は小石に一文字から数文字の経文を書写し埋納されたもので、中世から近世にかけて築造され、近世に盛んとなる。また多くの人々の参加により埋納された。

宝蔵寺一字一石経は、埋納縁起を記した願文石及び絵を描いた石を伴い、須弥壇下より発見された貴重な例である。

平成十一年三月

飯能市教育委員会

本堂の左手から裏山を目指す/左手に経塚が見える



こんな塩梅



墓地の奥と本堂の裏の斜面が館跡のエリアらしい/寶藏寺は加治氏の菩提寺あるいは持仏堂だったのではとも云うが・・・

[video](#)



斜面を登って、そのエリアを覗いたところ/目を凝らすと、土塁と空堀らしき地形が見て取れる

 [video](#)



左手（西側）の空堀らしき溝を、斜面上方向（北方向）に見たところ



その西側の空堀を斜面上に進んで、振り返って見たところ

 [video](#)



その左手を見たところ/ここが館跡と思われるが、平場というよりは斜面・・・



その更に左手を見ると、土塁らしきマウンドが東方向に続いている/その左手は空堀か・・・



その北側の土塁をアップで見たところ/右手が館跡/西側から東方向に見たところ

[video](#)



これは北側の土塁を東側から西方向に見たところ/その右手は空堀

[video](#)



その北側の土塁をアップで見たところ/左手が館跡



そこで左手（館跡）を見たところ



これは館跡から南方向を見たところ



さて、館跡の近くに鳥居があった



「村社 加治神社」とある



ここは、武蔵七党の丹党出自の加治氏後裔である中山氏ゆかりの加治神社



説明板が立っている



この近くには、中山氏の菩提寺である智観寺が所在し、その北にあった丹生神社がここに合祀されたと云う

## 中山氏と加治神社

伝承によると中山信吉のぶよしの祖父にあたる中山家勝は上杉氏の家来として、北条氏との河越夜戦に敗れ中山に戻るとき、入間川の洪水に阻まれる。その時芦毛の馬を連れて老人に救われ、中山にたどり着く。老人は「吾われは吾妻天神なり」と言い残し馬とともに、天神様の前で姿を消したという。

加治神社は、明治の初め、聖天社が改称された名称だと考えられる。その後、この伝承の残る天神様（天満宮）は、加治神社と合祀ごうしされる。

加治神社の現在の本殿は、明治四十年頃智観寺の北にあった丹生神社が合祀されたときに移築されたものである。参道には寛永十九年の石灯籠が六基並んでいる。中山信吉の嗣子中山信正が丹生神社中興に当たり寄進したもので、本殿とともに移転された。信正は丹生神社の祭礼にも力を注ぎ、中山村の隆盛に力を注いだ。

加治神社は、中山氏の足跡を残していると同時に、一時は中山町と称されていた中山村繁栄の一端を示している。

平成十五年三月

飯能市教育委員会

一対の石灯籠が立つ



左手に説明板が立っている/加治神社の現在の本殿は、明治40年頃智観寺の北にあった丹生神社が合祀されたときに移築されたものと云う



参道の六基の寛永19年銘の石燈籠は、中山信吉の嗣子・信正が丹生神社中興にあたり寄進したもので、本殿とともにここに移転されたと云う

飯能市指定工芸品

# 加治神社寛永十九年石灯籠

飯能市大字中山七一六番地  
昭和三十七年五月一日指定

この石灯籠は、もと智観寺境内の丹生<sup>たんしやう</sup>明<sup>みやう</sup>神社にあったが、明治の中頃、丹生明神社が加治神社に合祀されたとき社殿とともに現在地に移された。神社の階段両側に二対、段上に一对の計六基が献納されている。いずれも高さ百七十五センチメートルの花崗岩でつくられ、竿の表面には献納者等を印した陰刻がある。

献納者中山信正は中山信吉の嫡子であり、父のあとを継ぎ水戸家徳川光圀に仕えて家老職に就いた。信正は智観寺や丹生明神社を中興し、中山宿に市をたてるなどして江戸初期の中山村は大いに繁盛し、丹生明神社の祭礼は大そう賑わいを見せたという。

平成八年三月

飯能市教育委員会

ここにも、一対の石灯籠が立つ



更にここにも、一対の石灯籠が立つ/これで計六基

[video](#)



「加治神社」と記された神額



振り返って参道方向を見たところ



参考ホームページ

<http://jyokakuzukan.la.coocan.jp/011saitama/238kaji/kaji.html>

<https://sites.google.com/a/onodenkan.net/lie-dao-cheng-zhi-ji-xing/qi-yu-xian/jia-zhi-wu-fu>

<https://sites.google.com/a/onodenkan.net/lie-dao-cheng-zhi-ji-xing/qi-yu-xian/jia-zhi-wu-fu?tmpl=%2Fsystem%2Fapp%2Ftemplates%2Fprint%2F&showPrintDialog=1>

<https://atenzasports23z.blog.ss-blog.jp/2015-09-03>

<https://ameblo.jp/harun2019/entry-12488714829.html>

<http://kagura.wa-syo-ku.com/飯能市の神社/加治神社>

<https://ameblo.jp/harun2019/entry-12488714829.html>

